

## 仮庵の祭りと千年王国

2009年10月11日 アシェル・イントレーター

聖書の祭りは春に3つと秋に3つあります。イエシュア(イエス)の初臨の主な出来事は春の例祭時に起こりました。

- 過越の祭り-十字架
- オメルを数える(初穂の祭り)-復活
- 七週の祭り-聖霊のバプテスマ

聖書において同じような論理で、再臨の主な出来事については秋の例祭とのつながりを見ることができます。

- ヨム・テルーア(ラツパを吹き鳴らす祭り)-艱難
- ヨム・キップール(大贖罪日)-再臨
- 仮庵の祭り-千年王国

ラツパを吹き鳴らす祭りを祝った時、黙示録のラツパによる裁きの預言的な意味に注目しました。特に、この世の王国はイエシュアの王国になるという最終宣言についてです(黙示録 11:15)。

大贖罪日の日、私たちは断食するだけでなく、悔い改め、イエシュアの贖いの血について感謝し、主の大いなる恐ろしい日(ヨエル 1:15、2:1、2:11)や、最後の大いなるラツパの響き(マタイ 24:31、Iコリント 15:52、Iテサロニケ 4:16、レビ記 25:9-10)での主の再臨に対する私たちの信仰を宣言しました。

仮庵の祭りはすべての聖書の例祭の成就であり、主の救いの計画の最終ステージを示しています。終わりの時の大いなる戦争とイエシュアの再臨(ゼカリヤ 14:1-15)において、全世界の生き残った人々は礼拝や仮庵の祭りを祝うためにエルサレムに上るのです(ゼカリヤ 14:16-21)。

そのような祝祭は千年王国の時に起こります。仮庵の祭りは千年王国でも行われます。仮庵の祭り自体がその王国の予示なのです。

主の前に感謝を込めて収穫物を集めてそれを振るように命じられています(レビ記 23:40、ネヘミヤ 8:15)。その中には、しゅろの葉について特に述べられています。

イエシュアがロバに乗ってエルサレムに入城した時(ゼカリヤ 9:9)、弟子たちはしゅろの葉を振って主をお迎えしました(ヨハネ 12:13)。その入城には二つの問題がありました。最初に、主は白い馬で

はなく、ロバに乗って来られました(黙示録 19:11)。第二に、それは「違う日」でした。しゅろの葉を振るのは仮庵の祭りであって、過越の祭りの時ではありません。

そのような預言的なしるしについて、次のような結論を出すことができます。過越の祭りの時は、勝利の入城ではなく、へりくだった入城でした。それには別の入城があるのです。イエシュアは王として白い馬に乗り、仮庵の祭りの第一日目に勝利の入城をします。少数のユダヤ人の弟子たちだけがしゅろの葉を振るのではなく、各国の義なるレムナントたち(残りの者たち)も一緒に振るのです。

**その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手にとって、御座と小羊との前に立っていた。(黙示録 7:9)**

終わりの時にイエシュアが再臨され、勝利によってエルサレムに入城し、地上において主の千年王国の統治を大いなる祝祭と晩餐会と共に始めるといふ、祭司のしるしとしての私たちの希望を持って、各国の民は主の前にしゅろの葉を振るのです。

もし人々が信仰と理解を持って行うなら、これらの祭司のしるしには大いなる権威と油注ぎがあります。水の浸礼は人が生まれ変わるための道具になり得ます。注ぎの油は癒しの道具になり得ます。同じように、ヨム・テルーアにラツパを吹き鳴らすことは、神による終わりの時の裁きの宣言となり得ます。しゅろの葉を振ることはメシアであるイエシュアの千年王国に対する私たちの信仰の宣言になり得ます。

もし預言的に行うならば、神の御国を地上にもたらず一部になり得ます。私たちが地上でつながらなければ天でもつながれるのです(マタイ 16:19、18:18)。私たちが執り成しの祈りをする時、その祈りは香のように立ち上り、そして炎のように地上に降り注ぐのです(黙示録 8:3-5)。私たちがラツパを吹き鳴らす時、天の御使いたちが私たちと共にラツパを吹き鳴らすのです(黙示録 8:6、10:7、11:15)。

私たちはイエシュアがエルサレムに再び入城し、主の御国をうち立てるのを招くためにしゅろの葉を振ります。私たちには、私たちが主を呼ぶまで(マタイ 23:39)主は戻って来られないという主との契約があります。それゆえ私たちは主を呼んでいるのです。主をお招きしているのです。私たちはメシアであり、ダビデの子である方をエルサレムに帰って頂くよう、私たちの民の古代の契約に基づいてお呼びしているのです。

神は天地創造の前からメシアによる王国をご計画されてきました。主は祭司的なしるしを定め、イエシュアが地上でお生まれになる前から例祭を定められました。それらは前から定められていたもの

なので、権威があります。しかし、例祭はイエシュアの御名による権威の元で行われる時のみ権威があります。

仮庵の祭りの時(聖書の例祭の終わり)に農作物の収穫があるように、時代の終わりに魂の大いなる収穫があります(マタイ 13:39、黙示録 14:14)。イスラエルでのメシアニック運動は終わりの時の諸国のリバイバルの火付け役となると私たちは信じています。

---

この安息日(10/9-10)、この例祭の最後の大きい日に、私たちは聖霊のバプテスマと世界のリバイバルについてメッセージをしました。(ヨハネ 7:37、38)「さて、祭りの終わりの大きい日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」男性、女性、子どもたちは踊り、叫び、しゅろの葉を振りました。

聖霊が働かれました。二人の元・超正統派ユダヤ教徒が初めて聖霊のバプテスマを受けました。一人の若いイスラエル生まれの青年が悪魔からの解放を求めて前に出てきました。もう一人のイスラエル人男性(救われてない、初めて来られた人)が前に出て、手を置いて祈ってもらいました。

エルサレムから生ける水の川が流れ出て世界中のリバイバルの霊的な洪水となるよう、どうか私たちと共に祈りと信仰を持って立って下さい。